

感想：城下町金沢の遺産 辰巳用水 を守る

本文は対談形式の話言葉になっており、活字になった金沢弁は最初のうちは読みづらかったのですが、読み進むにつれて慣れてしまい、むしろ昔は自分も使っていたのだとの思いで懐かしくも思いました。

辰巳用水が国史跡に指定されているは初めて知りました。辰巳用水が約400年経過した現在も残っているのは、維持管理に長年畦地さんをはじめとした人たちの苦労があったからこそと思いました。辰巳用水を遺跡として将来に残していくには、過去のこれらの経験を今後の用水維持管理に活かしていくことが重要と思いました。「NPO 法人辰巳用水にまなぶ会」の役割は大きいですね。

私の金沢の実家の裏庭より下がったところ直ぐに辰巳用水が流れていました。私がいた昭和35年頃は用水に流れる水はきれいでした。

いくつかの出来事を思い出しました。

- ・川沿いに蛍が舞っており、用水に入り追いかけたこと
- ・庭には富有柿の木があり枝が用水側に伸びており柿をとる時に誤って用水に落としてしまい、流れていく柿を走って拾い上げたこと
- ・厄病よけのため「流しびな」をしたこと
- ・近くの「コウド」で洗濯しているおばさんがいたこと 等々

(142頁既述の「コウド」の漢字は私のPCでは漢字変換が出来ませんでした。215頁には「川処」の記述があり、同じ意味でしょうか)

辰巳用水は地域のまちづくりに大きく貢献しているといわれています。市民の関わりを考える時に、辰巳用水にいろいろの思い出を持っている人たちは多くいると思います。こういう人たちの思い出を集約するのも、用水に親しみが出て史跡としての深みが出るようにも思いますが、どうでしょうか。

書籍の編集・刊行は大変な仕事だったと思います。ご苦労様でした。「辰巳用水にまなぶ会」の今後の活躍を期待しています。大いに頑張ってください。

綿谷 勇

2020年5月7日

神奈川県横浜市在住

元旭化成(株)